【ポスター発表】

**「実習前評価システム（短期大学版）」における事前学習項目の妥当性の検討
— 学生に対する実習後の調査から —**

○帯広大谷短期大学 阿部 好恵 (8748)

淑徳大学短期大学部 樋田 幸恵 (5531)

〔キーワード〕 実習前評価システム（短期大学版）、事前学習項目、妥当性

1. 研究目的

本研究では、日本社会福祉士養成校協会北海道ブロックが施行する実習前評価システムを踏襲し、本学で考案した「実習前評価システム（短期大学版）」¹を用いた。本システムの冬期休暇中の記述式課題「実習前コンピテンス・アセスメント実習に臨む自己の姿勢」（以下、記述式課題）、前提科目を踏まえた OSCE（実習前技術試験：面接試験）・擬似 CBT（実習前知識試験：ペーパー試験）を A 大学短期大学部（以下、A 短大）の相談援助実習指導のプログラムの一つとして実施している。2016 年度の施行からは、2 年間の養成課程における効果的なシステム構築を進めてきた。一方、これまで事前学習の内容が実習体験に依拠しているか調査してこなかったことから、本研究では本システムの学習項目設定の妥当性について検討を行う。平成 29 年度はモチベーションの維持に重点を置いてシステムを施行し²、対象学生の実習に対する意欲は向上したが、課題・試験結果を踏まえ学生が実習中にどのような学びをしたか、追跡調査の結果について発表する。

2. 研究の視点および方法

本システムでは、「実習前コンピテンス・アセスメントシート（短期大学版）」（以下、知識群）に（1）実習に臨む自己の姿勢（2）ソーシャルワーク（以下、SW）の理論の理解（3）利用者への援助過程の理解（4）面接技法・観察技法の理解（5）援助関係の原則（6）家族分析の理解（7）グループワークの理解（8）地域（コミュニティ）実践の理解（9）記録の理解（10）スーパービジョンの理解（11）事例研究の理解（12）評価・倫理の理解の 12 の事前学習項目が設定されており、学生は課題や試験を通じ、到達度と実習生適格性を確認している。「短期大学版」の改良に向け、実習 3 者内の学生の視点を反映させることは重要と考え、事前学習項目がどのような実習体験と関連して理解されているかに注目する。

対象は A 短大の学生で、平成 29 年 8～10 月に相談援助実習を行い、本研究の目的、調査に同意が得られた 7 名とした。平成 28 年 12 月に相談援助実習指導の講義内で本システムの説明を行い、記述式課題を実施した。3 月に課題に関する個別フィードバックを実施した後、学習会の中で知識群を配布した。6 月 2 日に OSCE（短期大学版）、同月 30 日に擬似 CBT を実施し、7 月には両試験結果を記載した個人別評価表を配布した。全員の実習が終了した 10 月に学習項目と実習体験との関連性に関する選択・記述式のアンケート調査を

実施した。さらに、実習体験の詳細に関しては個別にインタビュー調査を行い、得られたデータは、質的分析の手法を用いて分析を行った。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理指針に基づき研究を行った。実習担当教員、学生へ書面及び口頭にて研究協力を依頼した。また、試験結果やインタビュー調査で得られたデータは統計的に処理を行い個人が特定されないよう配慮すること、科目の成績に影響しないことを伝え同意を得た。

4. 研究結果

本システムの結果は、記述式課題が最大値 85・最小値 55・平均値 71.8 であった。また、OSCE（短期大学版）が最大値 82.5・最小値 52.0・平均値 68.75、擬似 CBT が最大値 92・最小値 50・平均値 69.0 で学生全員が合格基準を満たした。

実習後の調査では、学生全員から 12 の事前学習項目と実習体験とを関連させて理解したとの回答が得られた。特に (1)、(2) のうち①SW の定義②SW の援助対象④SW の歴史⑤実践モデル及びアプローチの理解、(3) のうち②アセスメント、(4) のうち①利用者の話に耳を傾ける・うなずき・促し・反復②利用者の観察の 8 つは、全員が実習体験との関連性を述べていた。一方、(2) のうち⑥フィールド SW とレジデンシャル SW の理解、(7) のうち②グループワークの過程と原則、(12) のうち①事業者の評価方法の 3 つについては、回答が得られた学生は 1 名のみであった。

5. 考察

学生は、事前学習の 12 項目の内容と実習体験とが関連していると認識しており、項目設定の妥当性は担保されていると言えよう。一方で、実習体験と結びつかない、もしくは実習中に体験しない項目が明確になったことから、知識群の記述の方法や OSCE（短期大学版）、擬似 CBT の出題内容の変更等が必要である。アンケートに「スーパービジョン学んでよかった。自分が指導されているのは管理・教育・支持か分類できた。ただ言われる、落ち込むだけではないとわかった」との回答があった。事前学習によって、実習中の指導を感情的ではなく素直に聞き入れる姿勢やスーパービジョンの機能を意識し、指導内容を理解していることが述べられており、本システムは、知識や技術、実習生の適格性の明確化だけでなく、学生の学びを深める観点を備えることにも繋がる可能性が示唆された。

1 阿部好恵 (2013) 「社会福祉士養成教育における実習前評価システムの取り組み」帯广大谷短期大学生涯学習センター紀要 (2), 55-61.

2 阿部好恵・樋田幸恵 (2017) 「実習前評価システム (短期大学版)」の改良—学生の実習に向けた学習意欲の維持・向上—, 日本社会福祉学会第 65 回秋季大会ポスター発表